

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	鳥栖市立鳥栖中学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標とそれに基づいた重点目標の実現に向けて、教育活動を行った。学力向上では、校内研究の取組を中心に、話し合う活動やICT利活用といった共通実践を行った。コロナ禍の影響で、話し合う活動は内容や形態を工夫して行った。タブレットを話し合う活動のツールとして活用できた授業もあった。 ・いじめの早期発見と組織的な対応については、教師のアンケート結果から組織的に対応できていると捉えることができる。今後も教師が一人で抱え込まないよう学年を中心としたチームでの対応を継続していく。 ・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、現在、月曜の定時運動の徹底や会議時間の短縮、効率化を進めているところである。ICTを活用した、会議資料のペーパーレス化や提案方法の工夫等、抜本的な取組を推進する。
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさと鳥栖に誇りをもち、「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	①確かな学力の定着 ②豊かな心の育成 ③心身の健全な育成 ③コミュニティスクールの推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・マイプランの計画、見直し、振り返りや各調査結果をもとにして授業展開の見直しを図っていく。	C	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成べく取り組んでいる教師は60%	B	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成べく取り組んでいる教師は72% ・校内研修等を通して学力向上への取り組みについて意識を高めることができた。	B	・校内研修会の取り組みを今後も十分に図っていくことが大事であると感じた。	研究推進委員会(藤澤)
	○根拠を明確にして自分の考えを説明する活動を仕組み、思考力を育むような発問の工夫	○「条件に合わせて自分の考えを伝えることができた」に対して、肯定的な回答をした生徒80%以上	・単元(題材)を意識し、単元を見通した授業改善に取り組む。 ・考えを整理したり、広げるための「話し合う活動」を取り入れて授業を進めていく。	A	・7月に実施したアンケート調査で、「条件に合わせて自分の考えを伝えることができた」と回答した生徒が81%	A	・「条件に合わせて自分の考えを伝えることができた」と回答した生徒が約80%と生徒が発言しやすい雰囲気づくりや授業づくりの成果の表れと考える。	A	・読む力が問われるような問題が多くなってきているので国語力が大事になってくると考える。 ・読書の充実を図っていく。	研究推進委員会(藤澤)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教師80%以上 ○「思いやりや人権を大切にすることをしながら活動できている」に対して、肯定的な回答をした生徒80%以上	・各学年ごとに、共通理解のもと共通教材を用いた、ローテーション指導を行ったりしながら道徳の授業を実施している。 ・12月の人権週間において、生徒主体で取組を行い、人権感覚を高める。	A	・各学年ごとに、共通理解のもと共通教材を用いたり、ローテーション指導を行ったりしながら道徳の授業を実施している。「全体計画に基づいて授業を行った」と回答した教師80%。 ・人権週間の取組では福祉委員に一人一役を担わせ、生徒主体の形に近づけることができた。学校の実態にあった取組ができた。「思いやりや人権を大切にすることをしている」と回答した生徒96%	A	・道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教師がそう思う、大体そう思うを含めると89.6%となり、成果指標を上回る結果となった。引き続き、見直しをもって、道徳教育を教職員全員ですすめていきたい。 ・「思いやりや人権を大切にすることをしながら活動できている」に対して、肯定的な回答をした生徒が90%を超える結果となった。各家庭においても人権に関する項目で肯定的な回答が80%を超えているので、今後協力しながら生徒の意識を高めたい。	A	・視点が違うのかも知れないが、あいさつ運動をしていて、もっとあいさつが遠のくようにないかと思う。もっとあいさつができるようになると良いと思う。	道徳主任(香月) 人権・同和教育担当(松野)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教育相談、生徒指導等との連携、充実、早期発見、早期対応のための体制作りの強化、いじめ防止等のための取組について組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・毎月10日の「鳥栖市いじめのちを考える日」に生活アンケートを実施する。 ・週に1回、生徒指導委員会を開催し、情報の共有と対策に努めていく。	A	・毎月10日の生活アンケート、並びに6、12月のいじめアンケートを実施したことで、様々な生徒のサインを見逃すことなく未然防止に努めることができた。また、生徒指導委員会、アンケートからでたことや問題行動などを共通理解し、対応に当たることができた。	A	・1年間を通して、生徒指導委員会を30回実施することができた。回数だけでなく、今学校で起きている問題や課題等を共通理解し、課題解決に向けて話し合うことができた。大規模校に対して必要な方向性を示し、足並みを揃える生徒指導の中心の場として機能した。	A	・身近な人に対する気持ちとそうでない人に対する気持ちのちがいは違いがあると思うている。細かくどうあるべきかを決めてしまおうと重みの違いが分からなくなると考える。一人ひとりの生徒の話しにつきり耳を傾けて対応をしていってほしい。	生徒指導(小淵川)
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「朝食をとること」、「一日の生活リズムを整えること」が大切だと考える生徒85%以上	・関連する教科等において、食に関する指導の視点と位置づけを指導する。 ・朝食だよりや健康委員会による校内放送で、食事(朝食)の大切さ、一日の生活リズムを整えることの大切さを周知する。 ・保護者会や懇談会などで、生活習慣(食生活)についての共通理解を図る。	A	・「健康であるために食事が必要である」と考える生徒の割合88.1%、「実際に朝食を毎日食べている。ほぼ毎日食べている」生徒の割合91.8%。指標は達成しているが、より良い食事内容にしていくなかに委員会等との連携が必要である。 ・「健康であるために睡眠が大切である」と考える生徒の割合93.2%。実際は全校生徒の約30%が夜12時を過ぎて就寝しており、知識を実生活に生かしていくための対策が必要である。	A	・1年を通して、食事の大切さ、特に朝食をとることの重要性は約92%で、概ね生徒達に浸透してきた。 ・生活習慣に関しては、「健康であるために睡眠が大切である」認識はあるものの、実生活とは異なる生徒もあり、遅刻等につながっている部分がある。電話連絡等での保護者への協力継続する必要がある。 ・完全給食になって2年目となり、準備、後片付けがかなりスムーズになった。	A	・生活習慣は学習活動を進めていくうえで大切になってくると思うので、今後も食事指導、睡眠の大切さについて指導を行っていくほしい。	給食・食育担当(碓速)
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・会議資料の事前配布、ICTを活用したペーパーレス提案により、提案時間を定めた会議時間の短縮に努める。 ・見直しをもった活動促進するため月行事、過剰の提示を適切に行っていく。	B	・職員連絡会等の時間を短縮するため、連絡掲示板を設け、連絡、確認を随時行っている。 ・月行事、過剰の提示は適切にできている。	B	・月行事や過剰の提示、連絡掲示板を設けたことで職員連絡会の時間を短縮することができている。 ・見直しをもった活動ができる環境づくりに今後取り組み、勤務時間の削減に努める。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学習率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学習率80%以上	・小中一貫教育の柱として位置付け、小学校での取り組みとの一貫性を重視しつつ体験型の授業を重視しながら各学年で計画的に行う。 ・実施した内容を資料として残し、本年度の総括と次年度への提言を残す。	B	・新型コロナウイルス対策等もあり、十分な取組とはならなかった。授業参観を通して小学校の学習内容と中学校での学習内容との系統性を考えることができた。 ・茶遣や着付け体験において、体験活動に多く取り組んだ。	A	・小中一貫の取組で授業参観を通して小学校の学習内容と中学校での学習内容との系統性を考えることができた。 ・着き物やプレゼンテーション、和食、和装、茶遣(田舎)や着付け体験活動を行った。 ・体験活動による学びは大きいものだった。	A	・授業公開のちも方を工夫していくことでもっと充実したものになると思う。	日本語担当(小田)
○進路指導の充実	◎夢や目標を持ち、主体的に学び生き生きと活動する生徒の育成	★学校評価アンケート(生徒)の項目16「将来の夢や目標をもつことができています」に当てはまる生徒が80%以上である。	・3年間を見通した進路計画のもと、タブレット等を積極的に活用した進路学習を行う。 ・進路に関わる機遇を充実させ、生徒が主体的に活動できる環境作りを進める。	B	・7月に実施した学校評価アンケート調査の中で、「15.将来の夢や目標を持つことができています」と肯定的に回答した生徒は80%であり、3年間を見通して進路指導が行われていると考える。	B	・3年生については、オープンスクールなどの掲示物を掲示し、生徒が自主的に参加するシステムを構築できた。 ・次年度は、タブレットを使った進路指導の取り組みを実施できればと思う。	B	・以前まで行われていた職場体験があると生徒の進路に対する意識がもっと高まってくると考える。	進路指導(小田)
○開かれた学校づくり	○学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	○「学校は必要な情報提供を行っている」に肯定的な回答をした保護者85%以上	・ホームページやまちコミメールを活用し、迅速に情報を発信する。ホームページを必要に応じて適宜更新する。	A	・7月に実施したアンケート調査で、「ホームページやまちコミメールを活用し、必要な情報提供を行っていると思う」かの質問に対して肯定的な回答をした保護者が89%	A	・ホームページやまちコミメールを活用し、必要な情報提供を行っていると思う」かの質問に対して肯定的な回答をした保護者は85%以上	A	・地域への情報発信については、回覧板等に学校だよを載せるとういと思う。	PTA担当(藤森) ホームページ、まちコミ担当(藤森)

●●●県共通 ★●鳥栖市共通 ○●●学校独自 ○●●志を高める教育	5 総合評価・次年度への展望	・全ての項目において、「おおむね達成できている」以上を達成することができた。成果指標(数値目標)を意識しての活動の成果である。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進についてはICT等を活用した業務改善にこれからは取り組む、業務改善に努めていく。 ・ホームページやまちコミメールを活用し必要な情報発信を行い、開かれた学校づくりを進めていく。
--	----------------	---